

南海鐵道株式會社營業部長	池澤	順治郎氏	欠
大阪商船株式會社	宮田	武太郎氏	欠
日本ペイント株式會社庶務課長	三浦	遊龜氏	欠
日本染料株式會社作業手係主任	小野村	平太郎氏	欠
協調會備 橋本支所長及池見、荒木、溜島、林の四名出席			
出席者合計	拾三名		

午後六時半開會、食卓を共にしながら鈴木又治氏より「國際聯盟の脱退は今日よりすれば已を得ざりしことなるも、日本の主張すべき點は斷乎主張し讓歩して差支なき點に於て讓歩したとへ列國の反對あるも寧ろ、脱退をなさずホツカムリ主義で押し通す方がよかりしにあらざるか。今日の經濟機構より見て、國際主義を放棄することは至難なり、其意味に於ても脱退は不可なりと思惟するこの觀點に立てば國家主義は、要するに尊王讓夷であ

るが、或る程度までは發達する可能性があるだらふが大なる勢力となることは期待し難い

各國の勞働組合の日本主義説明には骨がふれた。

反戰運動は、單なるマルクス理論に基くものが多いが、私はとらない。日本の共產黨運動も運動も運動としては全然誤つて居る。總同盟は、最初の友愛會時代に今日は立ち歸つて居る、日本としては、どうしても階級組織は無視出來ないが資本家側にして譲るべきは譲り、組合側も譲るべきは譲り、「日本」と云ふ國家の觀點より問題を處理すべきである。」

と云ふ要旨の許に、出席會員少數なりしだけ、打ちくつろぎまで、懇談あり、十時を報ずるに及んで漸く散會せり。